

太陽 Grant Thornton Advisory Insights

ビジネスコンサルティング

今回のテーマ： DX 考察第 3 回 - DX 推進における現状のデジタル成熟度評価

はじめに

DX 考察第 2 回では、日本における DX 推進状況として約 95% の日本企業が部分的な推進に留まっており、まだまだ DX の推進が進んでいない企業が多いことを踏まえた上で、DX の進め方の概略について考察しました。

本記事では、前回記事に引き続き、DX の進め方におけるデジタル成熟度評価の重要性とその活用方法に関して考察したいと思います。なお、本文中の意見に当たる部分は、筆者の私見であることをあらかじめ申し添えます。

デジタル成熟度とは

DX 考察第 2 回で考察した通り、デジタル成熟度評価とは、企業の経営状況をデジタルの観点から定量的に把握・評価するものです。今日のデジタル社会において、デジタル成熟度の高い企業は、競争優位性を持つことを意味します。デジタル成熟度の高い企業は、下記に挙げられる DX によって得られる効果を享受している状況です。



企業活動の可視化
(インサイト向上)



労働力/生産性向上、働き方改革



デジタル統合、一元管理



売上増加、顧客体験の向上



コスト削減



業務の迅速化、アジャイル経営

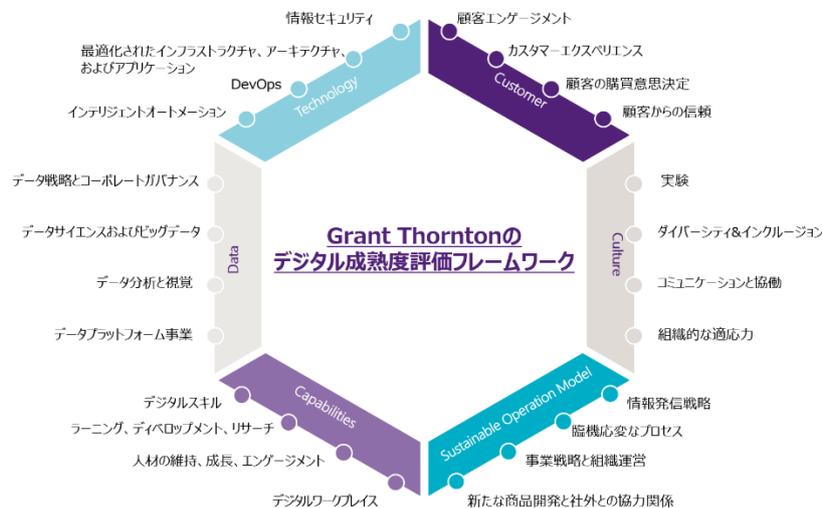
デジタル成熟度を評価する対象は、個々のデジタル化の取り組み状況ではなく企業の考え方そのものとなります。企業のデジタル成熟度を正しく評価し把握することは、その企業にとって適切な DX 戦略を策定する上で大変重要であり、中長期に及ぶ DX 推進の過程で、状況に合わせた適切な判断につなげることができます。

デジタル成熟度評価のフレームワーク

したがって、デジタル成熟度を評価し把握すべき領域は、多くの企業が陥りがちなテクノロジーの活用状況のみではなく、より広範囲に設定する必要があると言えます。DX を進める上で評価することが望ましい主な領域は下記の 6 領域となり、これらの領域におけるデジタル成熟度を総合的に評価し把握することが、適切な DX 戦略策定に有効であると考えます。

- ① 経営モデル及びオペレーションモデル (Sustainable Operation Model)
- ② 企業文化 (Culture)
- ③ 組織及び人材 (Capabilities)
- ④ データ思考 (Data)
- ⑤ テクノロジー (Technology)
- ⑥ 顧客体験 (Customer)

この6領域は、当社グループが提供するデジタル成熟度評価のフレームワークとしても利用されています。



デジタル成熟度評価の活用方法

デジタル成熟度を把握することは、適切なDX戦略策定に対してもとても有効であると言及しましたが、言い換えると、デジタル成熟度の把握をせずにDX推進することはとてもリスクが高いアプローチであると言わざるをえません。

あるべき姿及び目指すべきに姿を描いても、自社の立ち位置が分からないままでは、いつまでもあるべき姿及び目指すべきに姿にたどり着くことはできません。DX推進は、“目的”ではなく“プロセス”であることを理解し、自社のデジタル成熟度を基に、アクション (DX戦略策定とデジタル化施策の検討) につなげる必要があります。

デジタル成熟度評価は、DX戦略を策定するために活用することが一般的ですが、下記に挙げられるような活用方法も採用されています。

- ① 社内での認識共有：DXは経営者等の組織の一部のみで推進できるものではなく、経営者層から従業員ひとりひとりまでの企業全体が一体となることで初めて、成功体験としてのDXを成し遂げることができます。デジタル成熟度を評価して共有することは、企業内の認識共有・あるべき姿への議論を活性化させることにも活用できます。

マイルストーン確認：DXは中長期的な活動であり、DX施策による効果創出にも一定の期間を要します。定期的にデジタル成熟度を評価することによって、DXの推進過程で状況が変わったとしても、計画の再設計や環境変化への適応が可能となります。

終わりに

DX推進においてデジタル成熟度評価の重要性を理解して頂くことが、少しでもDX推進に関与される方々のお役に立つことを願っております。自社のデジタル成熟度を他社と比較して評価することは容易ではありませんが、当社グループでもGrant Thorntonグローバルネットワークを利用した世界各国企業のデジタル成熟度と自社のそれとを比較することができるツールをご用意しています。無料のお試し版もご用意しておりますので、現状のデジタル成熟度を評価されたい場合はぜひ活用ください。

以上